

社会資本総合整備計画 事後評価書

令和05年12月26日

計画の名称	広域拠点都市として活発な交流を促す魅力あふれるまちづくり											
計画の期間	平成31年度 ~ 令和05年度 (5年間)										重点配分対象の該当	
交付対象	沼津市											
計画の目標	<p>本市は、古くから道路、鉄道、海上交通の拠点としての地理的優位性を活かし、様々な都市機能が集積した県東部地域の交流の中心地として発展してきた。今後も、県東部地域の交流拠点としての役割を担い、人、物、情報の活発な往来を促すためにも、鉄道駅、高規格幹線道路のインターチェンジ等、交通拠点間相互の連携を強化し、市内各地からそれら交通拠点間相互を連携する国道等へのアクセス性を向上させる道路整備を実施することで体系的な交通網を構築する。また、交通及び交流拠点の中心となる沼津駅周辺地区においては、鉄道高架化や土地区画整理による中心市街地のより一層の都市基盤強化を行い、土地利用の高度化を図っている。</p> <p>市民及び来訪者に円滑な都市交通を提供し、県東部の交流拠点のまちとしてふさわしい魅力ある都市空間の形成を図る。</p>											
全体事業費(百万円)	合計(A+B+C+D)	7,097	A	7,097	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合C/(A+B+C+D)	0 %

番号	計画の成果目標(定量的指標)			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値 (H30末)	中間目標値	最終目標値 (R5末)
1	各交通拠点間の移動時間短縮及び各交通拠点間を連携する国道等への移動時間短縮 道路整備に伴う移動時間の短縮率 { 要素事業の移動短縮時間(時間) / 現況移動時間(時間) } × 100 = 移動時間短縮率(%)	0%	%	42%

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靱化を含む	-	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-	避難確保計画の策定	避難行動要支援者名簿の提供
-----	-----------	---	----------	---	----------	---	------------	---	------------	---	-----------	---	-----------	---------------

A 基幹事業

基幹事業(大)	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市区町村名/ 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	費用 便益比	個別施設計画 策定状況
												H31	R02	R03	R04	R05			
一体的に実施することにより期待される効果																			
備考																			
道路事業	A01-001	街路	一般	沼津市	直接	沼津市	S街路	改築	(都)沼津南一色線ほか 1路線	バイパス L=0.77km	沼津市						2	-	
		R2より個別補助事業へ移行																	
	A01-002	街路	一般	沼津市	直接	沼津市	S街路	改築	(都)片浜西沢田線	バイパス L=0.93km	沼津市						687	-	
		R3より個別補助事業へ移行																	
	A01-003	道路	一般	沼津市	直接	沼津市	市町村道	改築	(他)市道2694号線ほか 1路線	バイパス L=0.62km	沼津市						504	-	
	A01-004	道路	一般	沼津市	直接	沼津市	市町村道	改築	(他)市道2698号線ほか 1路線	現道拡幅 L=0.36km	沼津市						1,615	-	
	A01-005	道路	一般	沼津市	直接	沼津市	市町村道	改築	(他)市道2697号線ほか 3路線	現道拡幅 L=2.12km	沼津市						514	-	
	A01-006	道路	一般	沼津市	直接	沼津市	市町村道	改築	(他)市道2622号線	歩道整備 L=0.21km	沼津市						50	-	
	A01-007	道路	一般	沼津市	直接	沼津市	市町村道	改築	(2)市道0213号線	現道拡幅 L=0.75km	沼津市						440	-	

A 基幹事業

基幹事業(大)	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市区町村名/ 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	費用 便益比	個別施設計画 策定状況
												H31	R02	R03	R04	R05			
一体的に実施することにより期待される効果																			
備考																			
道路事業	A01-008	道路	一般	沼津市	直接	沼津市	市町村道	改築	(2)市道0246-3号線	バイパス L=0.38km	沼津市						3	-	
	A01-009	道路	一般	沼津市	直接	沼津市	市町村道	改築	(1)市道0105号線	路線改良 L=0.73km	沼津市						367	-	
	A01-010	道路	一般	沼津市	直接	沼津市	市町村道	改築	(2)市道0275号線	路線改良 L=0.41km	沼津市						562	-	
	A01-011	街路	一般	沼津市	直接	沼津市	S街路	改築	(都)金岡浮島線(西沢田2工区)	バイパス L=0.42km	沼津市						1,064	-	
	A01-012	街路	一般	沼津市	直接	沼津市	S街路	改築	(都)沼津南一色線ほか1路線	バイパス L=0.77 k m	沼津市						1,200	-	
		R2・R3は個別補助事業へ移行R4以降は無電柱化事業のみ個別補助事業へ移行																	
	A01-013	道路	一般	沼津市	直接	沼津市	市町村道	改築	(他)市道2707号線	バイパス L=0.06km	沼津市						89	-	
												小計						7,097	

A 基幹事業

基幹事業(大)	番号	事業 種別	地域 種別	交付 対象	直接 間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市区町村名/ 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	費用 便益比	個別施設計画 策定状況
												H31	R02	R03	R04	R05			
一体的に実施することにより期待される効果																			
備考																			
											合計						7,097		

事後評価

事後評価の実施体制、実施時期	
事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
市内部審査会（各部長、まちづくり統括監で構成される審査体制）による評価を実施し、とりまとめた原案をもとに、沼津市公共事業評価監視委員会（有識者3名、公募委員2名による審査体制）による評価を実施。	令和5年11月
	公表の方法
	評価完了後、市のホームページに掲載
事業効果の発現状況	
定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	市道0213号線の整備完了により、接続する（都）片浜西沢田線を経由し、国道1号までのアクセス性が向上した。今後、供用予定である（都）片浜西沢田線、（都）大手町片浜線の全線開通がされることで、周辺の幹線道路や沼津駅までのアクセス性向上に寄与すると考えられる。 市道0246-3号線の整備完了により、令和5年3月に供用開始された、国道414号バイパス（沼津アルプストーンネル）へのアクセス性向上に寄与している。 市道2705号線（市道2697号線ほか3路線）の整備完了により、今後供用予定である新貨物ターミナルに接する市道と県道富士清水線が結ばれることで新貨物ターミナル周辺へのアクセス性向上に寄与されることが期待される。
定量的指標以外の交付対象事業の 効果の発現状況（必要に応じて記述）	市道0213号線の整備完了により、「交通安全性の向上」「地区内の移動経路（補助幹線道路としての効果）」「防災拠点へのアクセス性向上」に寄与している。
特記事項（今後の方針等）	
交通拠点相互を連携する国道等へのアクセス強化に資する道路については、遅れは生じているが一部が供用し、アクセス性の向上に寄与している。 しかし、連続立体交差事業の工事着手の遅れによるものなど、当初計画に位置付けた事業の進展が図られていない路線もある。 今後は、各事業の進展に鋭意に取り組むと同時に、面的な道路整備を行っていくことで、交通拠点を中心に地域間相互の連携を強化し、都市交通の円滑化と県東部の交通拠点のまちとしてふさわしい魅力ある都市空間の形成を継続的に進めていく。	

目標値の達成状況			
番号	指標（略称）		
	目標値 / 実績値	目標値と実績値に差が出た要因	
1	$\{ \text{要素事業の移動短縮時間（時間）} / \text{現況移動時間（時間）} \} \times 100 = \text{移動時間短縮率（\%）}$		
	最終目標値	42%	・計画期間内に整備完了予定とした路線のうち、連続立体交差事業の遅れにより、関連する道路の工事進捗が遅延したこと等により、計画期間内に整備完了しなかったため ・未完了の路線は、次期計画（R6～R10）に移行し事業を継続する ・次期計画で整備完了・供用の見込み
	最終実績値	10%	